資料紹介『小寺泰次郎歴伝』稿本（第二回）〔三〕

凡例

。翻刻・校訂は総務課市史編さん担当で分担した。
。全一四章のうち本誌には、第三章の十二項目以降のすべてを掲載した。
。用字は常用漢字を原則とした。
。抹消その他の理由により判読できない場合、▨で示した。
。校訂者による注記は傍注として（　）で示した。

小寺泰次郎翁歴伝

〔三〕仕官と其治績

（一～十一項目は前号に掲載）

（一）勧農の実行

三田領南郷は附物（耕地三十五町五反参畝八歩高六百九十四石）屏風（耕地十一町八反四畝十四歩高三百十五石）深谷（耕地十五町七反四畝五歩高四百七十二石）上大沢（耕地二十四町六反六畝十四歩高四百九十五石）南中大沢（耕地九町四反六畝二十六歩高百八十五石七升）北中大沢（耕地十三町九反十四歩高二百六十七石一斗三升）日西原（耕地二十一町四反七畝四歩高二百八十八石五斗六升）簾（耕地八町五反十五歩高百四十九石四斗四升）の各部落を指し合計耕地百四十一町一反三畝九歩高二千九百六十七石の大郷なりと雖も之が灌漑用水たるや川としては只一二帯の如き細流あるのみにして郷中の耕地は殆と全部池水の供給を仰くのみならず各部落とも丘崗谿谷の間に介在して土地多くは傾斜に富み加ふるに其地層の下部は嵓石又は硬緻なる埴土より成れるか故（ママ）（上大沢村に於て殊に甚し淫雨の際には上部土壌の崩壊所謂地辷りの災を起し池堤の決潰貯水の漏泄其迹を絶たず農家は殆ど連年旱害に苦しみつゝありたり故を以て翁は任に涖（ママ）むと共に先づ灌漑用水の改善を以て第一の急務なりと認め其初て郷中を巡回したるの日各村の庄屋名主等を召集し劈頭奇問を発して曰く汝等は米穀の収穫多ふからん事を望む歟将た其少からん事を冀ふ歟と而して彼等の豊作を祈るなりと答ふ事を待ち更に謂つて曰く然らば汝等宜しく池を掘れ池は南郷の富液汝等の宝淵なりと誡めり郷民相伝へて此時より既に其着眼の非凡なるに驚き皆名代官と称して翁に推服したりと云ふ又或年久しく雨らず地大に旱りて稲禾将さに枯

『小寺泰次郎翁歴伝』稿本
〔三〕十二項目冒頭部分

れ尽さんとするや郷中の農民夜も眠る能はず菱(ママ)を着け笠を冠り松炬を打翳(翳)して山を躋り谷を亘り鉦鼓を撃ち鳴らして大呼雨乞を為す事連霄(霄カ)に及べり翁之を見て喜ばず村々の重立たる者を召し麾き諭して曰く汝等連夜連霄(霄カ)雨を祷ると雖も竟に何の効かあらん畢究汝等の為す所は往古の蛮俗にして其蒙昧なる事言語に絶せり恐らくは身体を疲労せしめ却つて稼稿(穡)を怠るの害あるのみ時至らば祈らずと雖も自ら雨り時臻らざれば祷ると雖も霑ふこと無し寧ろ其労苦を移して池を掘り瀦浚らへて以て永く旱魃の患を除くに若かざるなりと斯の如く灌漑用水の設備に熱心したる翁は果して幾ばくもなく上大沢村地内の後谷池の改修を為したるを手始めとして任期中殆と間断なく池普請の為に土功を興せり即ち翁の新築若くは改修に係るものを掲けんに凡そ左の如し

枯木ヶ谷池の新築（屏風村地内）　此池は村内第一の大池にして翁の新たに築造したるものなり翁の設計通り築造するに於ては尚堤防を約二丈許も積上げ大に貯水量を増加し得べき余裕を存せり而も灌漑用水は現在の形状にて充分なるが故に追普請を為さゝるも翁は予め他日の用を慮り現在の堤防を更に積上げ得るに足るの準備を施し特に堅固に築き居れり

城ヶ谷池の新築（同上）　此池は翁が南郷代官と為りたる後ち後谷池に次いで起工したる新築池なるも憾むらくは地質の砂土なる為め池水漏竄し今は殆ど廃用に属せり

頓行司池の改修（同上）　此池は水田約七町歩の灌漑用池にして又屏風村内に於ける屈指の大池なり元と池床の浅かりし為め瀕年旱害に罹りたるを以て翁之を救済する為め其堤層を積上げ貯水量を大に豊福ならしめたる結果再来大旱の歳にも灌漑の不足を訴ふる事無きに至れり

岩谷池の復旧（同上）　此池は黒子川上流の支水を堰上げ之を水源とせるものにして約八町歩の灌漑用とせり然るに翁の任期中に堤防決潰し附近田地は全く荒蕪に帰せんとしたるを翁の力に依りて改築の功成り旧状に復せり

蛇谷池の改修（同上）　大田直左衛門個人の所有池なるも翁の救済に依り郷中普請として改修せれたり(ママ)（以上五項旧南郷組頭西津半兵衛相続人西津大吉談）

黒子山疎水の新設（同上）　前記枯木ヶ谷池より引水にして其延長約三十町に及べり水源地と共に新鑿されたるものにして翁が南郷に於ける土功の事蹟中顕著なるもの丶一なり殊に此附近は地質硬牢にして岩塊を含むが為めに工事難渋を極め人夫用具の損耗甚しかりし為め特に人夫賃米五合を加給し竣工まで莫大の資金を費せり

沼池の埋立（中大沢村地内）　翁は新たに灌漑用池を設けて